

「知ってる、身近な商品」の包装にもこんな工夫!

クロージャーレスで、包装用袋のプラ使用量も削減!

パンなどに付いている、2センチ角ほどのプラスチック製の小さな留め具。この名前が「クロージャー」です。敷島製パンでは2021年9月からクロージャーをなくした包装を開始。「超熟フォカッチャ」や「バラエティブレッドシリーズ」のハーフパックなどをクロージャーレスへ変更しています。

これにより、クロージャーの原料となるプラスチックはもちろん、包装袋のプラスチック使用量削減にもつながり、「バラエティブレッドシリーズ」では、商品に使用されるプラスチックを30%以上削減しました。



「バラエティブレッドシリーズ」(変更前・左/変更後・右)。

西日本地区では2024年から「超熟ライ麦食パン」のハーフパックもクロージャーレスに変更(変更前・左/変更後・右)。

マイクロ単位で、極限に挑戦! 「サンドロール」の包装フィルムを25マイクロに!

おなじみの「サンドロール」では、包装フィルムを薄くすることで約20%のプラスチック使用量削減を成功させました。

変更前のフィルムの厚みは30μm(マイクロメートル)でしたが、変更後は25μmに。単にフィルムを薄くするといっても実現までにはさまざまな工程での確認が必要で、何度も検証を繰り返して25μmのフィルム使用が可能になりました。

このほか「白い食卓ロール」も同様に30μmから25μmのフィルムに変更。さらに同品はバイオマスプラスチックを配合したフィルム包材への変更も行っています。

※1μm=1mmの1000分の1



包装フィルムを薄肉化した「サンドロール」上と「白い食卓ロール」左。



名古屋銘菓「なごやん」進物箱でシュリンク包装を廃止

「なごやん」では、進物用(10・14・21個入)の箱に使われていたシュリンク包装※(フィルム)を廃止に。また5個入のプラスチックケースを植物由来のバイオマスプラスチックを配合したものに変更しました。

※シュリンク包装とは熱を加えることで収縮するフィルムの性質を利用し、容器によってぴったり収縮させる包装のこと。

シュリンク包装(フィルム)の廃止で、年間約1.5トン※のプラスチックを削減!
※直近の販売実績で年間換算



進物用の箱入り「なごやん」は、箱を覆っていたシュリンク包装(フィルム)を廃止。

1920(大正9)年、「金儲けは結果であり、目的ではない。食糧難の解決が開業の第一の意義であり、事業は社会に貢献するところがあればこそ発展する」という理念のもとに創業した「敷島製パン株式会社(Pasco)」。時代が移り社会が求める課題は変化しましたが、同社が「事業を通じて社会貢献する」という基本理念は今も変わりません。サステナブルな社会を実現するためにさまざまな取り組みを展開する中でも、循環型社会の実現を目指した取り組みでは原材料調達から生産、さらに消費者が消費・廃棄するまで全ての過程における資源の有効活用を推進しています。

プラスチックトレースも実現

「クロワッサン」(4個入)などは、2022年から袋の中に入れていたプラスチックトレースをなくしました。これはプラスチック使用量削減とともに、プラスチックごみ削減にもつながっています。

トレースになった「クロワッサン」。トレースがなくなった分、袋への入れ方などが工夫されています。



「パン箱」で目指すのは、100%リサイクル

商品の流通に使われる「パン箱」。敷島製パンでは、使用できなくなったパン箱をチップ化し、新たなパン箱に生まれ変わらせるリサイクル活動をすすめています。現在のリサイクル率は約50%。これを100%にするのが目標です。



リサイクルのほか、1つの箱あたりのプラスチックの使用量も削減できないか検討中だそう。

全員でSDGsを理解、そして実践へ!

敷島製パンではサステナブル経営を推進するため、2019年に「SDGs100年委員会」を立ち上げるとともに、4つの「SDGs委員会」を発足。経営層から若手まで階層や役職に合わせて理解浸透を図るとともに、取り組みを推進しています。

プラスチック使用量削減などの問題を担当するのは、「SDGsつくる責任つかう責任委員会」。同委員会では2030年までの目標として「容器包装に関わる石油由来100%のプラスチックの使用重量を25%削減※」などを掲げ、このページで紹介した事例をはじめ、さまざまな取り組みをすすめています。

このほか全社的にSDGsを浸透させる取り組みとして職場教育にも注力。その一環として一人ひとりが「Do my SDGs」カードへ「私の目標」を記入し、目標を従業員同士で共有するなどの活動も行っています。

※2019年度と比較



「Do my SDGs」カードは従業員同士のコミュニケーションツールとなっています。

●今後の課題や目指すところは?

「衛生面やおいしさをしっかりと確保した上で『品質』を守りながらプラスチック使用量を削減するには、多くの課題があります。ここで紹介した事例も、試行錯誤を繰り返して実現してきました。今後も社内はもちろん、原材料メーカーとも連携しながら『未来のあるべき姿』に向かって、皆でがんばります!」

中 / 執行役員 調達部長 飯田理恵さん
左 / 調達部 原料調達グループ マネージャー 北川雅宣さん
右 / 調達部 原料調達グループ チーフ 伊納明男さん

